

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 9 号 (6 月 4 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県総体初戦鶴岡南戦 痛恨の敗戦！

5 月 30 日 (金) 県総合運動公園サブグラウンドで県総体一回戦が行われました。山東はこれまで、地区総体で Y1 の東海大山形に敗れたものの、Y2 以下には全勝。攻守にわたり調子を上げて県総体に臨みました。重度の肉離れによって登録メンバーからも外れたリンちゃんなど、故障者はいましたが、一人も故障者がなく大会に臨むチームの方が珍しい。そう考えると、**上々の状態で大会を迎えた**ことになる。相手は、同じ Y2B の鶴岡南。技術のある選手が多く、高さもある。昨年の選手権では辛くも引き分けに持ち込み、PK 合戦の末山東が勝利しましたが、内容ではやられていた。昨年の山東の勝負強い戦いを示す一戦でしかなく、**あれからどちらがチーム力を向上させたか**がこの日のポイントとなる。会場はやや芝目が長い天然芝、天気は快晴。多くの保護者の方々と、学校から校長、応援団顧問、応援団 (含むチア) がかけつけ、最高のバックアップ体制を築いてくださる。いつもと違ったのが、OB 会長が姿を見せなかったのと法事で後藤報道局長がいらっしやらなかったこと。ですが、OB 会からは激励会にも参加して頂いた岸幹事長 (山東 21 回卒) が応援に来て下さっている。ありがたい質量の応援を受け、15:30 キックオフ。

試合が始まると、**山東の動きが硬い**。ボールが収まらず、押し上げる時間を作れないまま、間延びしている印象あり。試合開始早々に、その山東の立ち上がりの悪さを突かれる。鶴岡 FW への正確な縦パスから、要警戒のトップ下、そして押し上げてきたボランチという鶴岡の前線の中央 3 枚と、山東 CDF2 枚とがマッチアップし、数的不利なまま崩される。「おいおいおい。最初からどうなってんだよ！」とベンチで声を荒げるも、その後も鶴岡の猛攻に遭い、あわや失点というシーンを幾度も作られる。**鶴岡の選手にスキルが備わっていることはわかっていますが、前線の動き出しの早さ、MF・DF のファーストでの競り合いの強さ、MF のセカンドボールへの寄せの速さ、いずれも想定以上**。対する山東は、序盤の劣勢が心理的に影響したか、DF ラインが相手ワントップに引きずられ低く (押し上げられず/ラインを維持できず)、中盤に人を割けないため、跳ね返してはまた攻められるという悪循環。序盤は単に相手のシュートに助けられ、何故か失点しなかったものの、彼我の状態のあまりの違いにベンチも混乱。速い前線を見せながら、ボランチを使って試合を落ち着かせ手厚く攻め込むという、これまでできていた山東攻めが、この日全く影をひそめ、相手のプレッシャーに急がされ、アバウトな長いボールを入れ、鶴岡の長身 CDF に跳ね返され続ける。スコアレスながら内容の悪さに呆れていると、前半中盤、左サイドからしっかり崩され、とうとう失点。その後も山東の良いところなく時間が過ぎ、結局 0 対 1 でハーフタイムへ。

この前半 35 分で、山東にとって好材料というか、褒められるべきは、何故か 1 失点しかしていないということだけ。「この前半で 1 失点しかしていないのはもうけものだ。前半は助か

ったと思って、後半はガンガン行くしかない。」と声をかける。

しかし、後半も立ち上がりから鶴南ペース。山東はDF-MF間で落ち着いてボールを回すことができない。ベンチからは、強行出場したがやはり故障の影響で十分に走れないため前半途中で退いたキャプテンコウタが、「落ち着いてボランチ使え」と何度も声を張り上げるも、鶴南の寄せの前にDFが焦って前方へ大きくフィードするだけで、有効な攻めができていない。裏へのボールに対するムントリのスピードだけが山東の攻撃の糸口と化しており、その攻撃も鶴南DFに難なく読まれている。山東GKのキックも、中央付近に飛ばば鶴南ボランチ¹か鶴南DFにヘディングで跳ね返されるためアウトサイドに意識して飛ばすが、そうすると、タッチラインを越えるキックミスにつながりやすく、GKケッツンも困惑気味。そういうのを感じ取ってDFが下がってボールを受けてくれると、というか、ボールを受けてGKを助けてやる必要があるなど感じてくれると、助かるんですけどね〜。ともかく、悪い流れを断ち切れないうまま、後半も時間だけが過ぎて行き、またしても後半中盤に、自陣内で悪い形でボールを奪われ²、右サイドを崩され、失点。いよいよ山東、苦しくなってきました。**怪我の影響で25分の出場が限界というエイジを後半途中から投入、そしてほどなくしてレスラーを投入し、前線の活性化をはかり得点を狙うと、彼らフレッシュな選手が持ち味を発揮。**レスラーが深い所で起点を作って折り返したボールをやはりムントリが決め、残り10分ほどで1対2となる。鶴南は当然ながら失点をしないセーフティな試合運びをするため、最後の5分は山東波状攻撃！とはいえ、本格的なチャンスは作らせてもらえず、というか作れず。一番のチャンスはレスラーが後方からボールをもらいターンした直後に受けたファウル。主審が笛とともに勢いよく走るのので、「まさかPK？」と胸が高鳴りました。が、ペナギリギリのFK。この試合を通じて、長めの芝のためボールが浮き気味で、普段の感覚よりボールが上がることを感じていたので、キッカーを呼んで低く抑えるキックを心がけるよう伝えようかと思いましたが・・・こういうときにベンチが介入すると、選手の考えを邪魔することになったり、選手が硬くなったりするので、自重しました。結果は、ゴールマウス上へと大きく外れるボールとなる。そして程なくタイムアップ。泣き崩れる選手、呆然とする選手、完敗にさばさばしている選手、いろいろでした。

最後のシーンを含め、ベンチでもっとうまくチームを率いることができなかつたか、または、これまでのチーム形成に問題があったのではないかと、試合後ずっと自問自答しています。昨年の敗戦も悔しかったですが、今年は内容面も完敗だただけに、ショックの質が違うというか。もちろん鶴南の選手のパフォーマンスが素晴らしかったのですが、それは認めつつ、もっと違う戦いができなかつたのか、なぜあんなに悪い試合をしてしまったのか、繰り返し考えています。**ともかくも、今年の山東の県総体終了。そして、3年生にとって最後の大会終了。**プロだったら監督は解任です。責任を痛感しています。

応援本当にありがとうございました。今週末には準決勝・決勝(三位決定戦)がありますが、山東は運営の仕事を仰せつかりました。3年生も含め、選手は山形の代表の姿をしかと目に焼き付けてほしいと思います。ちなみに、山東を破った鶴南は新庄東に敗れ、その新東も山形中央に敗れました。四強は、羽黒を破った山商、昨年の選手権覇者の米沢中央を破った日大、城北を接戦の末下した東海大山形、そして山形中央です(いずれも村山地区!)

¹ 鶴南のCDFが高くヘディングで勝てないのは前もってよくわかっていましたが、鶴南ボランチがあればほどヘディングが強い(というかタイミング、ポジショニングが素晴らしかった)とは予想を超えてました。

² 書きながら試合を思い出しているのですが、鶴南の前線の選手の後方からのディフェンスが非常に対戦相手にとってうるさく、効果的でした。前方を観ながらプレーしている選手にとって、自分の後方から一生懸命戻ってディフェンスされると、とても嫌なんですよ〜。鶴南の前線の選手は、ボールを大切にす攻撃でも良かったですが、守備の意識も高かったです。